

平成 26 年度（2014 年度）
事業計画書

目 次

はじめに	1
1. 環境認識	1
2. 基本方針	2
3. 事業別基本方針	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	4
【平成 26 年度の計画概要】	4
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	5
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	7
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	7
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	8
II. 普及事業（公益目的事業 2）	9
【平成 26 年度の計画概要】	9
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	11
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）	16
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	18
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	19
【平成 26 年度の計画概要】	19
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	20
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	20
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	22
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	22
IV. 収益事業等	23
【平成 26 年度の計画概要】	23
1. 公認（収益事業等 1）	23
2. 商品販売（収益事業等 2）	24
V. 管理部門	25
【平成 26 年度の計画概要】	25
1. 会員・会友	25
2. 組織運営	25
3. 企画委員会	25

はじめに

1. 環境認識

(1) 外部環境

平成 24 年 12 月に発足した第二次安倍内閣が推進する「アベノミクス」と呼ばれる金融財政政策により、金融緩和、財政出動、及び成長戦略が展開されており、国内景気の回復を通じて、長年続いたデフレからの脱却への期待感が高まっている。その一方、消費税率が平成 26 年 4 月 1 日に 5%から 8%へ、翌 27 年 10 月 1 日には 8%から 10%へと二段階で引き上げられることが決定しており、景気への影響が懸念される。

また、近年日本の高齢化傾向は継続しており、内閣府の「平成 25 年度版高齢社会白書」によると、2012 年（平成 24 年）10 月時点での 65 歳以上の高齢者が総人口に占める割合（高齢化率）は 24.1%（前年 23.3%）、2060 年には 39.9%に拡大すると予想される。

不透明な経済環境や社会の高齢化傾向は今後も持続すると予想され、人々の余暇活動や当連盟の運営にも影響するものと見られることから、本年度も引き続き事業運営の効率化を図りつつ、厳しい外部環境に対応していく必要がある。

(2) 内部課題

当連盟としての中長期的な課題は、以下の 3 点であると認識している。

第一に、本連盟の使命遂行のため、いかなる環境下にあっても安定した事業運営を行っていきける強固な基盤を構築すること、そのためには、業務執行体制を強化するとともに、収支均衡予算を図り、健全な財務体質を堅持することが肝要である。平成 24 年度と 25 年度は、それぞれ APBF コングレス福岡大会開催及び Yeh Bros 杯開催という特殊要因により計画段階で赤字予算を組んだが、本年度は 3 年ぶりに均衡予算を編成した。

第二に、普及事業の再活性化である。過去 10 年程度、JCBL ではブリッジの認知度拡大や体験教室の活性化など、裾野を広げることに重点を置いた普及活動を展開してきた。この活動は一定の成果を収めたと評価できるが、次の段階として、単に「ブリッジを知っている」から一歩進み、「ブリッジ愛好者」になってもらうための新たなアプローチが必要である。

第三に、プレイヤーの高齢化への対応である。本連盟のシニア比率（全会友会員に占める、70 歳以上を対象とするシニア会員・シニア会友の割合）は、平成 10 年度の約 10%から平成 25 年度は約 40%弱へと 3 倍余りに拡大しており、日本社会全体のトレンドを上回るペースで高齢化が進展している。JCBL では平成 14 年度よりセクショナル競技会の参加料を 500 円割引するシニア割引制度を実施してきたが、この傾向に伴い制度の維持が困難となったため、平成 25 年度末をもって廃止することに決定した。高齢化傾向は今後も継続すると考えられることから、会員会友の年齢構成を常に配慮しながら、財務構造や競技会関連サービスの定期的な検証や改善に取り組んでいく必要がある。

さらに短期的な課題として、消費税率引き上げへの対応が挙げられる。平成 26 年 4 月から消費税率が 5%から 8%に引き上げられるが、本年度の連盟主催競技会参加料は現状維持とし、消費税率 10%への移行時に向けて改めて検討する。

2. 基本方針

以上の状況を踏まえ、本年度は次の 2 点を軸に事業活動を行う。

- 引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに、公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。普及事業部においては、平成 25 年度の中期計画に基づいて進めた事業の成果に応じ、それぞれの事業の継続、修正または中止を決定した後、平成 26 年度新規事業の実施計画とともに、平成 26 年度からの 3 か年の中期計画を改めて策定し、それに基づいて事業を進める。
- 普及事業をさらに活性化させるため、ブリッジセンターとの連携を強化する。ブリッジ愛好者を増やしていくための普及のためには、多くのプレイヤーが集う場であるブリッジセンターに拠点になってもらうことが不可欠である。一昨年より活動してきた「センター協議ワーキンググループ」をさらに発展させ、連盟とブリッジセンターを結ぶパイプラインを強化し、より効果的な普及活動を展開していく。

なお、本年度は、競技会主催団体が当連盟に支払う公認料率の引き下げ (①)、会友会費制度の改定 (②)、及び、セクショナル競技会のシニア割引廃止 (③) という、収支構造に大きな影響を及ぼす 3 つの施策が実施される。③による収入増分と①と②による収入減分がほぼ均衡しており、連盟の活動には影響を及ぼさないと考えられる。

3. 事業別基本方針

(1) 競技会事業 (公益目的事業 1)

- NEC ブリッジフェスティバルを含め、主催競技会の運営においては、世界各国から高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。
- 中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。
- 競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト (JTOS) の保守を継続し、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム (ブリッジメイト) の貸与及び導入支援を継続する。
- ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施しない。

(2) 普及事業 (公益目的事業 2)

- 平成 25 年度の活動によって興味が喚起された 20~30 代及び新たなシニア世代の受け皿として、平成 26 年度はブリッジセンター、ブリッジクラブにおける普及活動に重点を置く。
- 普及のターゲットとして「パズル、ゲーム、勝負事志向のグループ」と「社交、学び、自己実現志向のグループ」に大別し、それぞれに『どこかで見る ⇒ 何となく知る ⇒ 興味を持つ ⇒ 興味がある ⇒ 参加する』という流れをより多く作る。
- 平成 25 年度から開設したプレイヤーズサロンは、当初から主にシニア層が参加してい

るが、元ジュニア、元学生プレイヤーの層に対しても積極的に紹介し、活性化を図る。

- 首都圏における普及活動は、PRを目的とする体験教室を数多く開催することより、質の高い入門講習会とその入り口となる体験教室を開催することに重点を置き、『参加しやすくする ⇒ 参加する ⇒ おもしろい・楽しい ⇒ もっとやりたい ⇒ 上達したい』という流れが途切れないようにする。
- 大阪、名古屋における普及活動は、別途検討する。
- その他の地方における普及は、必ずしも入門講習会にこだわらず、少人数でも体験教室を数多く開催し、『友人知人がプレイヤー ⇒ 誘われる ⇒ 興味を持つ ⇒ 参加する』という流れが途切れないようにする。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

- 本年度は、日本国内での国際競技会は開催しないが、ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。
- 中期的な目標としてアジア競技大会でのブリッジ種目採用を掲げ、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図る。今年度よりシニア参加料割引制度の廃止及び公認料率の引き下げを実施し、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連盟双方の事業基盤が強化されるような制度をめざす。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(5) 管理部門

- 平成 25 年度は当連盟設立 60 周年にあたり、記念事業として新入会者の平成 26 年度分の年会費を無料にする「新入会無料キャンペーン」を実施する。一方、未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していく事業を継続する。
- 事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。
- センター協議ワーキンググループを通じてブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方や連盟の支援方法を引き続き検討していく。
- 今年度より会友制度の簡素化を実施し、誰の目にもわかりやすい制度へ改定する。
- 進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【平成 26 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度は昨年度に引き続き移管したリジョナル 5 競技会のブリッジセンター主催を継続する。

前年度 2 回開催した NEC ブリッジフェスティバルは、今年度は例年通り 2 月に 1 回のみ開催する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	57,052,000	60,760,000	-3,708,000	
経常費用	88,249,725	109,574,485	-21,324,760	
経常増減	-31,197,725	-48,814,485	17,616,760	

(3)事業別総括表

事業名	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	57,052,000	60,760,000	-3,708,000	NEC ブリッジフェスティバル 開催を例年通り 1 回へ
	経常費用	67,387,475	84,721,035	-17,333,560	
	経常増減	-10,335,475	-23,961,035	13,625,560	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,755,200	1,718,000	37,200	
	経常増減	-1,755,200	-1,718,000	-37,200	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	392,000	738,000	-346,000	
	経常増減	-392,000	-738,000	346,000	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	18,715,050	22,397,450	-3,682,400	
	経常増減	-18,715,050	-22,397,450	3,682,400	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- ・ リジョナル競技会のセンター移管は、今年度は行わない。前年度移管した 5 競技会については、高い運営レベルを維持するよう支援・監督する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者招待を継続する。

② NEC ブリッジフェスティバル

- ・ 平成 27 年 2 月に NEC ブリッジフェスティバルを開催する。
- ・ 海外から 8 チーム、国内から 3 チームを招待する。
- ・ Biglobe シリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを飛鳥杯に招待する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	57,052,000	60,760,000	-3,708,000	前年度は NEC ブリッジフェスティバルを 2 回開催、玉川高島屋 SC 杯開催せず
経常費用	67,387,475	84,721,035	-17,333,560	
経常増減	-10,335,475	-23,961,035	13,625,560	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)主催競技会	拡大	経常収益	43,012,000	38,800,000	4,212,000	玉川高島屋杯約 400 万円収入増
		経常費用	37,945,295	36,455,295	1,490,000	
		経常増減	5,066,705	2,344,705	2,722,000	
(2)NEC ブリッジフェスティバル	拡大	経常収益	14,040,000	11,880,000	2,160,000	協賛金 500 万円計上 競技会収入を現状にあわせ削減
		経常費用	29,442,180	24,421,300	5,020,880	
		経常増減	-15,402,180	-12,541,300	-2,860,880	
(2)NEC ブリッジフェスティバル(II)	休止・中止	経常収益	0	10,080,000	-10,080,000	
		経常費用	0	23,844,440	-23,844,440	
		経常増減	0	-13,764,440	13,764,440	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 19、20 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	96
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5 月 10、11、17、18 日	4 日	四谷 BC	108
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	8 月 2、3 日	2 日	グランドホテル 浜松	30
藤山杯 (予選・決勝)	7 月 5、6 日	2 日	四谷 BC	120
外務大臣杯 (予選・決勝)	8 月 23、24 日	2 日	四谷 BC	58
高松宮記念杯	9 月 13、14、15、 20、21 日	5 日	四谷 BC / 五反田 BS	110
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	9 月 27、28 日	2 日	玉川高島屋 S・C/ 四谷 BC	120
高松宮妃記念杯 (予選・決勝)	11 月 1、2 日	2 日	四谷 BC	96
NISSAN ブルーリボン杯	12 月 23 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	110
エンゼル・レッドリボン杯	12 月 23 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	42
朝日新聞社杯	1 月 10、11、12 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	165
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・5、6 月、 後期：12 月・1 月	各 4 日	四谷 BC	16
2 部		各 4 日	四谷 BC	24
3) リジショナル競技会				
柳谷杯	4 月 12、13 日	2 日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	130
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC//名古屋 BC/大阪 BC	110
井上杯 (予選・決勝)	5 月 24、25 日	2 日	四谷 BC	60
井上歌子杯	5 月 25 日	1 日	四谷 BC	30
渡辺杯	3 月 21、22 日	2 日	四谷 BC	56
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				16

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
 - ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、新形式の競技会に対応する。
 - ・ スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
 - ・ 競技会速報システムを改良し使用を推進する。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
 - ・ 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
 - ・ 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
 - ・ 「デュプリケートコントラクトブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,755,200	1,718,000	37,200	
経常増減	-1,755,200	-1,718,000	-37,200	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	消費増税分
		経常費用	1,489,200	1,452,000	37,200	
		経常増減	-1,489,200	-1,452,000	-37,200	
(2)競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	246,000	246,000	0	
		経常増減	-246,000	-246,000	0	
(3)ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① ディレクター講習会
 - ・ 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で 1 回、地方で 1 回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各 1 回開催する。
- ② ナショナルディレクター養成プログラム
- 偶数年度である本年度は、ナショナルディレクター養成プログラムは実施せず、ディレクター実習のみ行う。
 - 現役ナショナルディレクターの技能向上のため、本年度より認定試験を行う。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	392,000	738,000	-346,000	
経常増減	-392,000	-738,000	346,000	

(2)個別事業一覧

表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)ディレクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	192,000	192,000	0	
		経常増減	-192,000	-192,000	0	
(2)ナショナルディレクター養成プログラム	縮小	経常収益	0	0	0	プログラム不実施年
		経常費用	200,000	546,000	-346,000	
		経常増減	-200,000	-546,000	346,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1)計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	18,715,050	22,397,450	-3,682,400	
経常増減	-18,715,050	-22,397,450	3,682,400	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	縮小	経常収益	0	0	0	消費税(370万円)を公認事業に移動
		経常費用	18,715,050	22,397,450	-3,682,400	
		経常増減	-18,715,050	-22,397,450	3,682,400	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【平成 26 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の 4 事業を行う。

本年度は、平成 25 年度から開始した新規事業が軌道に乗るよう継続的に支援策を実施する。平成 25 年度以前からの継続事業に対しては引き続き費用の見直しを行い、より効率的な活動を行っていく。平成 26 年度の新規事業に関しては、なるべくコストをかけずに内製化で対応できるものを中心に進めていく。

（従来から継続している主な事業の展開）

- 体験イベントの開催（公益事業 2.1）
⇒初心者体験競技会は通常事業として 4 回開催することを目標にする。
- 体験教室・講習会等の実施支援（公益事業 2.3）
⇒ブリッジセンター・ブリッジクラブ主催の入門講習会も助成対象とするよう助成規程を改訂し、受講者の拡大を図る。
- 広報（公益事業 2.4）
⇒体験教室、入門講習会開催告知のための全国一斉広告を実施する。（年 2 回）

（平成 25 年度から開始した新規事業の展開）

- プレイヤーズサロンの開設（公益事業 2.2）
⇒現在の 2 センターに加え、下半期から新たに 1 センターで開催することを目標にする。
- ブリッジセンター普及活動支援（センターと共同での普及活動）（公益事業 2.3）
⇒新助成規程による助成を行い、費用対効果を検証する。
- ネットブリッジの試作（公益事業 2.4）
⇒BBO を利用したネットゲーム環境として JCBL 専用ルームの構築を検討し、来年度から正式稼働させることを目標に、下半期からの試験運用を目指す。
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度の確立（公益事業 2.9）
⇒平成 25 年度は、公認資格制度導入に関して結論を出すまでに至らなかったため、今年度も引き続き議論する。

（平成 26 年度新規事業の展開）

- 連盟創立 60 周年記念事業の一環として、初年度年会費無料キャンペーンを実施する。
- 遊び方を紹介したビデオや入門レベルのチュートリアルビデオを制作し、シリーズ化してネット（YouTube 等の動画投稿サイト）で公開する。
- 劣化が危惧される記録ビデオの DVD 化を行い、JCBL ライブラリーとして管理する。
- プレミアムポイント制度、プレミアム会友制度など、全国のブリッジセンター・ブリッジクラブと一体になったプロモーション制度を設計し、運用方法を検討する。
- 年数回程度しか競技会に出場しない会員・会友を対象にして、新たに活性化キャンペーンを展開する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備 考
経常収益	1,694,000	2,548,000	-854,000	
経常費用	61,630,000	62,252,200	-622,200	
経常増減	-59,936,000	-59,704,200	-231,800	

(3)事業別総括表

事業名	区分	26 予算	25 予算	前年差	備 考
2.1 体験イベント の開催	経常収益	550,000	1,433,000	-883,000	NECBF を通常の 1 回開催 にしたことによる費用減 初心者大会をセンター主 催にしたことによる収益減
	経常費用	3,880,000	4,295,700	-415,700	
	経常増減	-3,330,000	-2,862,700	-467,300	
2.2 講習会等の開 催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	2,140,000	2,160,000	-20,000	
	経常増減	-2,140,000	-2,160,000	20,000	
2.3 体験教室・講 習会等の実施支 援	経常収益	420,000	400,000	20,000	新助成規程による助成費 用増
	経常費用	18,230,000	13,690,000	4,540,000	
	経常増減	-17,810,000	-13,290,000	-4,520,000	
2.4 広報	経常収益	724,000	715,000	9,000	入門書制作の費用減 (商品部の仕入で支出)
	経常費用	10,966,000	11,471,200	-505,200	
	経常増減	-10,242,000	-10,756,200	514,200	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	26,414,000	30,635,300	-4,221,300	
	経常増減	-26,414,000	-30,635,300	4,221,300	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらおうための各種体験イベントを実施する。

- ① 文化・教育関連イベント出展
 - 国民文化祭（秋田）サイドイベント（11月）
 - 霞が関子ども見学デー（8月）
 - 関西ジュニアペア碁大会（8月）
 - ゲームマーケット東京（4月、11月）
 - ゲームマーケット大阪（3月）
- ② 一般向け体験イベント
 - NECブリッジフェスティバル（2月）
 - 初心者競技会体験大会（平成 26 年度は通常事業として 4 回開催に拡大、場所未定）
- ③ ユース向け体験イベント
 - ユースキャンプ（9月）
- ④ ジュニア向け体験イベント（ジュニアクラブイベント）
 - 体験教室／入門講習会／練習会／競技会（毎月 1 回程度開催することを目標にする）

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	550,000	1,433,000	-883,000	事業規模見直しにより費用減
経常費用	3,880,000	4,295,700	-415,700	
経常増減	-3,330,000	-2,862,700	-467,300	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)文化・教育関連イベント 国民文化祭	前年度並み	経常収益	0	0	0	秋田開催
		経常費用	280,000	313,200	-33,200	
		経常増減	-280,000	-313,200	33,200	
(1)文化・教育関連イベント その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	510,000	488,800	21,200	
		経常増減	-510,000	-488,800	-21,200	
(2)一般向け体験イベント NECBF 体験教室	拡大	経常収益	0	271,000	-271,000	ペア招待費用を通常の普及活動として計上
		経常費用	950,000	678,800	271,200	
		経常増減	-950,000	-407,800	-542,200	
(2)一般向け体験イベント NECBF 体験教室(Ⅱ)	休止・中止	経常収益	0	271,000	-271,000	平成 25 年度は 2 回開催したが、平成 26 年度は通常の 1 回開催
		経常費用	0	678,800	-678,800	
		経常増減	0	-407,800	407,800	
(2)一般向け体験イベント 初心者大会の開催	拡大	経常収益	0	260,000	-260,000	運営をセンターに委託 全国 4 センターに拡大
		経常費用	490,000	305,000	185,000	
		経常増減	-490,000	-45,000	-445,000	
(2)一般向け体験イベント ブリッジを愉しむ会	前年度並み	経常収益	480,000	560,000	-80,000	
		経常費用	610,000	730,000	-120,000	
		経常増減	-130,000	-170,000	40,000	
(3)ユース向け体験イベント ユースキャンプ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	500,000	502,000	-2,000	
		経常増減	-500,000	-502,000	2,000	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアクラブ運営	縮小	経常収益	0	0	0	外注分を職員が対応
		経常費用	20,000	103,600	-83,600	
		経常増減	-20,000	-103,600	83,600	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアクラブ体験イベント	前年度並み	経常収益	70,000	71,000	-1,000	
		経常費用	520,000	495,500	24,500	
		経常増減	-450,000	-424,500	-25,500	

2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① インストラクター講習会

- ・ 体験教室や入門講習会の講師を初めて務めるプレイヤーのための講習会開催（下半期 4 回）

② ユース向け講習会

- ・ 「ユース育成プロジェクト」の一環としての技術向上支援（通年）
（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）

③ プレイヤーズサロンの開設

- ・ 初心者向けサロン（サロン形式）の開設

既存会員・会友が友人の手を引いて教えながら一緒に遊べる場、あるいはひとりで参加しても 1 ボード終了ごとにそれぞれのテーブルでレビューを行い、プレイヤー同士一緒に向上していく楽しさが実感できる場を全国に広げていく。

- ・ 中級者向けサロン（競技会形式）の開設

平日はプレイする時間が確保できない社会人プレイヤーや、休日のセクショナルは肌に合わないというプレイヤーのための場を全国に広げていく。

（現在の 2 センターに加え、下半期から新たに 1 センターで開催することを目標にする）

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	事業規模見直しにより費用減
経常費用	2,140,000	2,160,000	-20,000	
経常増減	-2,140,000	-2,160,000	20,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)ブリッジインストラクター講習会	縮小	経常収益	0	0	0	下半期に実施(年 2 回に変更)
		経常費用	130,000	218,000	-88,000	
		経常増減	-130,000	-218,000	88,000	
(2)ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,680,000	1,582,000	98,000	
		経常増減	-1,680,000	-1,582,000	-98,000	
(5)プレイヤーズサロン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	330,000	360,000	-30,000	
		経常増減	-330,000	-360,000	30,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。平成 26 年度からはブリッジセンター・ブリッジクラブが主催する入門講習会も助成対象とし、受講者の拡大を図る。（助成対象である講習会の受講者数が、平成 25 年度実績の 10%増となることを目標にする）

(1) 計画概要

原則として申請に応じて助成する。

- ① 一般支援
 - 教室助成（体験教室、入門講習会、カルチャースクール講座、サロン形式実習講習会）
 - 体験イベント支援、海外クラブ支援
 - 地方活性化活動（地方クラブ支援、初心者大会参加費用助成）
- ② 教育現場におけるブリッジ講座支援
 - 大学ブリッジ講座支援（東京大学、早稲田大学、福岡大学、青山学院大学、明治大学）
- ③ 学校・学生支援
 - 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）
 - 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
 - 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成
- ④ センター事業支援
 - 平成 25 年度に掲げた「ブリッジセンターが主催する講習会等の受講者に対する受講料の助成」に関しては、JCBL とセンター間で協議を行った結果、助成制度を見直すことで対応することとしたため、予算としては一般の助成規定に統合する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	420,000	400,000	20,000	
経常費用	18,230,000	13,690,000	4,540,000	
経常増減	-17,810,000	-13,290,000	-4,520,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	拡大	経常収益	0	0	0	講習会助成を拡大
		経常費用	11,320,000	5,898,000	5,422,000	
		経常増減	-11,320,000	-5,898,000	-5,422,000	
(1)普及活動支援 地方活性化支援	縮小	経常収益	0	0	0	招待キャンペーンの経 費を移動(初心者大 会へ)
		経常費用	720,000	1,169,000	-449,000	
		経常増減	-720,000	-1,169,000	449,000	
(2)学校講座支援 教師派遣・授業 拡大	新規	経常収益	0	0	0	講師:清水映樹 明治大学でセミナー 開講
		経常費用	440,000	0	440,000	
		経常増減	-440,000	0	-440,000	
(2)学校講座支援 大学講座① 東 京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:ロバートグレー
		経常費用	800,000	706,000	94,000	
		経常増減	-800,000	-706,000	-94,000	
(2)学校講座支援 大学講座② 早 稲田大学	前年度並み	経常収益	420,000	400,000	20,000	講師:清水映樹 (収益は連盟に返納さ れる講師費用分)
		経常費用	1,550,000	1,420,000	130,000	
		経常増減	-1,130,000	-1,020,000	-110,000	
(2)学校講座支援 大学講座③ 福 岡大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:勝部雅子
		経常費用	1,330,000	1,495,000	-165,000	
		経常増減	-1,330,000	-1,495,000	165,000	
(2)学校講座支援 大学講座④ 青 山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師:島村京子
		経常費用	1,380,000	1,290,000	90,000	
		経常増減	-1,380,000	-1,290,000	-90,000	
(3)学校・学生の 普及活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	690,000	752,000	-62,000	
		経常増減	-690,000	-752,000	62,000	
(5)センター事業 支援	休止・中止	経常収益	0	0	0	一般の助成費用とし て移動(助成規程へ)
		経常費用	0	960,000	-960,000	
		経常増減	0	-960,000	960,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。またブリッジのことをよく知らない人々に向けた入門レベル教材や入門書を制作する。

- ① 広報宣伝活動
 - メディア広告など JCBL すべての事業を広く世間にアピールするための PR 活動（随時）
 - 地域イベント参加やブリッジ図書寄贈など特定ターゲットを対象にした PR 活動（随時）
 - 体験教室や入門講習会の受講者の来場を促進するためのプロモーション活動（随時）
 - 体験教室、入門講習会開催告知のための全国一斉広告の実施（年 2 回）
- ② 出版物の刊行
 - 入門レベル教材の改訂（平成 26 年度中の改訂版発行を目標にする）
 - 入門書の制作・出版（平成 26 年度中の発行を目標にする）
- ③ ウェブサイト
 - 「普及通信」ウェブ版の定期更新（隔月）
- ④ 広報ツールの作成・配布
 - 初心者大会用賞品、普及・会員サービスに活用可能なグッズの製作または購入（随時）
 - 広報パネル、パンフレットなど広報ツールの企画・開発（随時）
- ⑤ ネットブリッジの試作
 - チュートリアル作成（平成 26 年度中の稼働を目標にする）
 - BBO を利用したネットゲーム環境を構築する（JCBL 専用ルームの開設）。平成 27 年度の正式運用開始を目指して、平成 26 年度は BBO との調整を進める。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	724,000	715,000	9,000	
経常費用	10,966,000	11,471,200	-505,200	
経常増減	-10,242,000	-10,756,200	514,200	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)広報宣伝活動	拡大	経常収益	724,000	715,000	9,000	集客広告支援を拡大 広報ビデオ制作および VHS の DVD ライブラリー化
		経常費用	9,030,000	7,730,000	1,300,000	
		経常増減	-8,306,000	-7,015,000	-1,291,000	
(2)出版 入門コース教材 作成	縮小	経常収益	0	0	0	出版に伴う印刷・製本 費用を削除(商品部の 買い取り費用で支出)
		経常費用	880,000	2,168,000	-1,288,000	
		経常増減	-880,000	-2,168,000	1,288,000	
(3)ウェブサイト JCBL ウェブサイトの 運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	268,000	316,000	-48,000	
		経常増減	-268,000	-316,000	48,000	
(3)ウェブサイト 普及通信の編集 発行	縮小	経常収益	0	0	0	外注分を職員が対応
		経常費用	48,000	91,200	-43,200	
		経常増減	-48,000	-91,200	43,200	
(4) 広報ツールの 作成・配付	縮小	経常収益	0	0	0	パンフレット改訂は平 成 25 年度で終了
		経常費用	440,000	1,066,000	-626,000	
		経常増減	-440,000	-1,066,000	626,000	
(5)ネットブリッジの 試作	拡大	経常収益	0	0	0	BBO との調整費用
		経常費用	300,000	100,000	200,000	
		経常増減	-300,000	-100,000	-200,000	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- 普及ネットの運営
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	26,414,000	30,635,300	-4,221,300	
経常増減	-26,414,000	-30,635,300	4,221,300	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
普及ネットプロジェクト	拡大	経常収益	0	0	0	公認資格制度確立のための会議費用
		経常費用	114,000	88,000	26,000	
		経常増減	-114,000	-88,000	-26,000	
管理費 普及事業部	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	26,300,000	30,547,300	-4,247,300	
		経常増減	-26,300,000	-30,547,300	4,247,300	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【平成 26 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

本年度特記事項：

- 本年度は第 2 回アジアカップ開催に伴い、APBF 選手権は開催されない。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	612,000	9,125,000	-8,513,000	
経常費用	16,153,050	32,911,700	-16,758,650	
経常増減	-15,541,050	-23,786,700	8,245,650	

(3)事業別総括表

事業名	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	72,000	8,585,000	-8,513,000	国際競技会開催予定なし
	経常費用	0	11,581,200	-11,581,200	
	経常増減	72,000	-2,996,200	3,068,200	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	540,000	540,000	0	
	経常費用	10,692,100	15,634,700	-4,942,600	
	経常増減	-10,152,100	-15,094,700	4,942,600	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,116,050	1,349,000	-232,950	
	経常増減	-1,116,050	-1,349,000	232,950	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	4,344,900	4,346,800	-1,900	
	経常増減	-4,344,900	-4,346,800	1,900	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

今年度は日本国内で国際大会は開催しない。

平成 32 年（2020 年）に APBF 関連の競技会開催を目標に開催資金の積立を行う。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	72,000	8,585,000	-8,513,000	
経常費用	0	11,581,200	-11,581,200	
経常増減	72,000	-2,996,200	3,068,200	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)APBF 選手権/ コンGRESS	休止・中止	経常収益	72,000	0	72,000	国際大会開催準備金 受取利息のみ計上
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	72,000	0	72,000	
(2)Yeh Bros 杯	休止・中止	経常収益	0	8,585,000	-8,585,000	平成 25 年度単発事 業
		経常費用	0	11,581,200	-11,581,200	
		経常増減	0	-2,996,200	2,996,200	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 27 年開催の APBF 選手権に派遣するオープン、ウィメン各 1 チーム及び 2 または 3 チームのシニアの日本代表を選抜する。参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

- 第 2 回アジアカップ
役員、代表委員、事務局員の派遣を行う。
- 今年度の世界選手権は日本代表を派遣する大会ではないため、派遣費用の助成は行わず、予選通過したペアまたはチームの参加料のみを支給する。
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- APBF 選手権（グレード I）：第 2 回アジアカップ
- 世界大学選手権（グレード II）

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	540,000	540,000	0	
経常費用	10,692,100	15,634,700	-4,942,600	
経常増減	-10,152,100	-15,094,700	4,942,600	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)日本代表選抜	拡大	経常収益	540,000	540,000	0	シニアトライアル開催 による人件費、会場費 増
		経常費用	1,822,000	1,394,000	428,000	
		経常増減	-1,282,000	-854,000	-428,000	
(2)国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	前年度並み	経常収益	0	0	0	シニア助成増
		経常費用	2,871,400	2,412,200	459,200	
		経常増減	-2,871,400	-2,412,200	-459,200	
(2)国際競技会派遣 世界選手権	縮小	経常収益	0	0	0	World Bridge Series は代表派遣なし。予 選通過した時の参加 料のみ助成
		経常費用	800,000	6,462,000	-5,662,000	
		経常増減	-800,000	-6,462,000	5,662,000	
(2)国際競技会派遣 その他	新規	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	0	300,000	
		経常増減	-300,000	0	-300,000	
(2)国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	840,000	840,000	0	
		経常増減	-840,000	-840,000	0	
(3)ユース育成プログラム APBF 選手権派遣	縮小	経常収益	0	0	0	8月→6月開催 航空運賃、宿泊費、 保険料減
		経常費用	1,809,800	2,464,500	-654,700	
		経常増減	-1,809,800	-2,464,500	654,700	
(3)ユース育成プログラム 世界選手権派遣	休止・中止	経常収益	0	0	0	大会は開催されるが、 日本は出場資格なし
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	
(3)ユース育成プログラム 世界ユースコンGRESS /大学選手権	前年度並み	経常収益	0	0	0	大学選手権
		経常費用	1,648,900	1,462,000	186,900	
		経常増減	-1,648,900	-1,462,000	-186,900	
(3)ユース育成プログラム その他国際競技会参加支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	600,000	600,000	0	
		経常増減	-600,000	-600,000	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

- ① 世界同時大会への参加
 - ・平成 26 年 6 月 6～7 日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力する。
- ② APBF 同時大会への参加
 - ・平成 26 年 11 月～平成 27 年 4 月まで開催が予定されている APBF 同時大会開催に参加協力する。
- ③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集
 - ・ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
 - ・APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
 - ・WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,116,050	1,349,000	-232,950	
経常増減	-1,116,050	-1,349,000	232,950	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	事務局員派遣の計上を取りやめ
		経常費用	1,116,050	1,349,000	-232,950	
		経常増減	-1,116,050	-1,349,000	232,950	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	4,344,900	4,346,800	-1,900	
経常増減	-4,344,900	-4,346,800	1,900	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	4,344,900	4,346,800	-1,900	
		経常増減	-4,344,900	-4,346,800	1,900	

IV. 収益事業等

【平成 26 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、販売事業は事務局が担当する。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備 考
経常収益	153,557,920	149,753,000	3,804,920	
経常費用	40,070,440	33,181,900	6,888,540	
経常増減	113,487,480	116,571,100	-3,083,620	

(3)事業別総括表

事業名	区分	26 予算	25 予算	前年差	備 考
1 公認	経常収益	133,277,920	129,573,000	3,704,920	
	経常費用	21,211,440	14,443,400	6,768,040	
	経常増減	112,066,480	115,129,600	-3,063,120	
2 商品販売	経常収益	20,280,000	20,180,000	100,000	
	経常費用	18,859,000	18,738,500	120,500	
	経常増減	1,421,000	1,441,500	-20,500	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を、公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸ルールに基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議ワーキンググループ」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率を現行の参加料の 25% から 22%に引き下げる。ブリッジセンターについては平成 26 年度の普及活動実施状況により、平成 27 年度の公認料率を決定する。
- ・ ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	133,277,920	129,573,000	3,704,920	
経常費用	21,211,440	14,443,400	6,768,040	
経常増減	112,066,480	115,129,600	-3,063,120	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
(1)競技会の公認	拡大	経常収益	133,277,920	129,573,000	3,704,920	公認料-1660 万円
		経常費用	19,919,440	13,216,400	6,703,040	シニア割引廃止+2500 万円
		経常増減	113,358,480	116,356,600	-2,998,120	消費税 700 万円計上
(2)コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリア
		経常費用	1,292,000	1,227,000	65,000	フリー工事助成
		経常増減	-1,292,000	-1,227,000	-65,000	

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1)計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備考
経常収益	20,280,000	20,180,000	100,000	
経常費用	18,859,000	18,738,500	120,500	
経常増減	1,421,000	1,441,500	-20,500	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,280,000	20,180,000	100,000	
		経常費用	18,859,000	18,738,500	120,500	
		経常増減	1,421,000	1,441,500	-20,500	

V. 管理部門

【平成 26 年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：8,000 部

『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：8,200 部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書を追加購入を行う。

③ 会友会費改定

- ・ 会友会費を以下の通り改定する。

一般会友（¥7,500）、団体会友（¥7,000）、家族会友（¥2,500）、海外会友（¥4,000）

→ A 会友 ¥6,000

シニア会友（¥3,750）、ユース会友（¥2,500） → B 会友 ¥3,000

地方会友は現状通り ¥2,500

同居の家族で会報が不要の場合は 1 名につき ¥1,200 割引

④ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 平成 25 年度の連盟創立 60 周年を記念し、新規入会者の会費を平成 27 年 3 月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者に QUO カードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。NECブリッジフェスティバルの普及イベントとして開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 企画委員会

- ・ 企画委員会のミッションは、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革である。
- ・ 平成 25 年度には、会員・会友の高齢化が進む中で連盟の負担となっているセクショナル競技会のシニア割引の廃止を検討した。また、過去の事業の効率化の成果をブリッジの普及に役立てるため会費を値下げするとともに、複雑になっている会友種別の簡素化について、ワーキンググループによる検討を行い、理事会に提案した。この結果は今年度の事業計画と予算に反映されている。

- 上記の昨年度の実績をもとに、今年度は連盟の中長期的な財政基盤をさらに充実させ、現在のブリッジの競技環境を維持してゆきたいと考えている。
- 平成 24 年度に開始した普及活動の拠点となるべき公認ブリッジセンターとの定期的な協議は平成 25 年度にわたって継続し、競技会の公認料率の改定、ブリッジセンターによる普及活動への支援・助成、「公認クラブ規則」の改定などを実現した。
- この成果をもとに、連盟とブリッジセンターによる競技会運営および普及活動における連携を、今年度以降においてもさらに進めてゆくことが必要である。そのための連盟とブリッジセンターとの定期的協議は、引き続き必要と考えられるので、実施方法と協議結果の役立て方について検討を進め、早急に実施したい。
- なお、来年度以降の予算の審議については、業務執行会議との役割の明確化などを行い、原則として予算の全体方針及び事業ごとの予算策定については、業務執行理事が責任をもって行うこととしたい。

(2)収支総括	26 予算	25 予算	前年差	備 考
経常収益	18,923,250	22,095,000	-3,171,750	
経常費用	43,872,500	44,875,050	-1,002,550	
経常増減	-24,949,250	-22,780,050	-2,169,200	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	26 予算	25 予算	前年差	備 考
1. 会員・会友 (1)刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,558,000	0	
		経常増減	-3,558,000	-3,558,000	0	
1. 会員・会友 (2)JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	350,000	350,000	0	
		経常増減	-350,000	-350,000	0	
1. 会員・会友 (3)キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	初心者大会ペア招待 費用のうち通常の普及活動分は公 2.1.2 で計上
		経常費用	880,500	1,000,550	-120,050	
		経常増減	-880,500	-1,000,550	120,050	
2. 組織運営 (1)管理部	縮小	経常収益	18,923,250	22,095,000	-3,171,750	
		経常費用	38,884,000	39,566,500	-682,500	
		経常増減	-19,960,750	-17,471,500	-2,489,250	
2. 組織運営 (2)九州支部支援 事業	縮小	経常収益	0	0	0	前売チケット交換終了
		経常費用	200,000	400,000	-200,000	
		経常増減	-200,000	-400,000	200,000	